

# ほ っ と

## 長い調剤薬局に幕

長野病院の東側駐車場に隣接する総社薬局が、この度閉局いたしました。長い間長野病院を影で支えてくださり、大変ご苦労さまでした。患者様にはご不便をおかけしますが、何卒ご理解のほどお願い申し上げます。



## 防災情報

## エリアメール

災害時に、避難勧告や避難指示、土砂災害警戒情報、警戒区域情報といった総社市からの防災情報を、いち早く市民の皆さんに伝達する広報手段の1つとして、エリアメールの配信をおこなっています。登録は総社市ホームページの「くらし・防災・環境」から、防災情報のエリアメールを御覧ください。

お問い合わせ：総社市危機管理室 0866-92-8599

## ぼうさいやどかりおかやま

ぼうさいやどかりおかやまは、医療的ケア児・者に対し、災害のおそれがある時や、自宅の停電が続くときに、避難先として地域の病院や福祉施設を利用するためのシステムです。入院または医療型ショートステイとして、これらの施設を利用することができます。（利用する場合は医療的ケアができる家族などの付き添いが必要です。事前準備なく、急に利用することはできませんのでご注意ください。）  
かかりつけ病院からの紹介状作成→事前面談などの段階を踏んでいきます。まずはぼうさいやどかりおかやまから登録を。

発行：ながの訪問看護ステーション

住所：〒719-1126岡山県総社市総社2-22-43

TEL：0866-92-8808 FAX：0866-92-8866

MAIL：houkan.nagano@koudou-kai.jp

URL：http://www.koudou-kai.jp

今年も熊本県を中心に、死者70人以上を記録した豪雨災害。最近では毎年のように、この時期の雨による被害が全国各地に発生しています。

岡山県でも、倉敷市真備町を中心に多くの被害をもたらした西日本豪雨から2年、未だに仮設住宅での生活を余儀なくされている方は約1280世帯、およそ2800人。仮設住宅を出て新しい生活を始めたのは2300世帯と、それぞれの方ができる範囲の生活を過ごされています。長野病院に勤務している職員も例外ではなく、2年前の災害を経験した人がいます。

## 病棟看護師Aさんの体験談

## あの日から2年

2018年7月6日、朝からの大雨と警報で不安な夜を過ごしていました。主人は夜勤で留守だった為、家には幼い子供二人と私だけでした。テレビやラジオで次々とする避難指示に戸惑い、何処に、どの道を通って避難すれば安全なのか判断できずにいました。。23時30分、突然の大きな横揺れが2回、その直後工場が大爆発、私は爆風で飛ばされたのです。窓ガラスは全て割れ、ドアは全て倒れ、外壁には穴が開いてました。家の中なのに、見えるはずのない空が真っ赤に染まっているのが見え、傍にいた子供達の呻き声を聞いて生きているのが分かりました。幸いにも怪我一つなくそこから逃げ出せ避難することができました。しかし翌朝、家は浸水し、私の家は爆風と浸水の二重被害を受けました。

被災から2年、今は家を建て直し、我が家も落ち着きを取り戻しました。不安は残りますが「命を守る行動を1番にとる」と決めて生活しています。

Aさんは続けて、ニュースやラジオで避難指示が出ても「どうしよう」と戸惑うばかりで、すぐに行動には移せません。ご近所同士の「避難しよう!」の声掛けは本当に必要だと、あの時実感しました。我が家はあの日以来「(最悪の事態が起こる)かもしれない」で、早めの避難をしようと話し合い、避難場所も決めています。災害は決して他人事ではありません。皆さんも「避難するなら」について考え、事前に備えることをお勧めします。と文章を締めくくっています。皆さんも防災、災害について今一度考えてみてはいかがでしょうか。Aさん、貴重な体験談、本当にありがとうございました。

### 利用者様の作品紹介

温故知新：過去の出来事を研究し、そこから新しい知識や見解をひらくこと。

臥薪嘗胆：目標を遂げるために苦心し、努力を重ねること  
これらを書いて下さった方は、91歳になられる男性の方で、今はほぼ、目が見えない状態で書いて下さいました。  
ありがとうございました。

